

市域面積の4分の3が液状化現象を起こした浦安市。
地元議員の広瀬明子さんによれば、
市の試算では、復興費には740億円余を要するとのこと。

また、今回被災した地域でも、
埋め立ての折に地盤強化対策を施しているところは、大丈夫だったとのこと。
詳しい報告は待たなければなりません、
パイルを深く打つだけでなく、地下の砂の地帯に、さらに砂の柱を打ち込む工法は
有効だったようです。

新浦安駅周辺でも、駅ビル自体には沈下の被害は見られないものの
周辺の歩道、駅広場は全体に沈下し、
駅ビルとは30センチもの段差が生じていました。

写真での報告です。
なお、前近況報告で、①電話ボックスと記しましたが、
「入船地区の崩れた堤防」の誤りでしたので、訂正し、以下に掲載します。



①新浦安駅前で、傾いた電話ボックス



②電話ボックスと歩道



③傾いた家屋



④駅ビルと周辺との段差